

大雨による災害

近年の日本列島では、台風や豪雨の影響により各地で大きな被害を受けています。台風や豪雨は、ある程度の時期や規模を予測できるため、気象庁等から発表される防災情報を正しく理解するとともに、事前の対策が重要となります。

防災情報

① 大雨・洪水警報

大雨や強風などによって、重大な災害が起こるおそれのあるときは、気象庁から「警報」が発表されますので、十分な警戒が必要となります。また、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測したときは「記録的短時間大雨情報」が発表されます。

② 大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されるとき又は、数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により、大雨になると予想されるときに発表されます。

③ 土砂災害警戒情報

大雨警報等が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が更に高まったときに静岡県と静岡地方気象台が共同で発表する情報です。

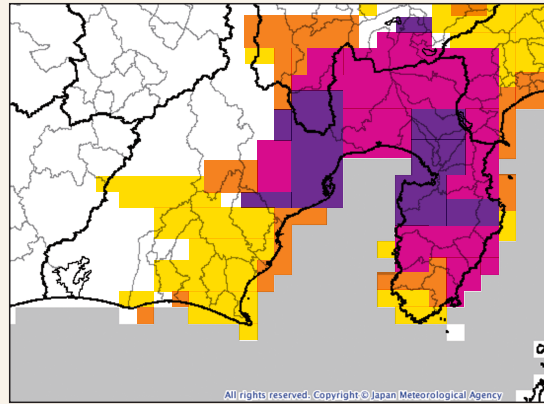
④ 土砂災害警戒判定メッシュ情報

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>

土砂災害警戒情報を補足する情報であり、5km四方の領域（メッシュ）ごとに土砂災害の危険度を5段階に判定した結果を表示しています。

土砂災害警戒判定メッシュ情報の見方

- ：実況で土砂災害警戒情報の基準に到達
- ：予想で土砂災害警戒情報の基準に到達
- ：実況または予想で大雨警報の土壌雨量指数基準に到達
- ：実況または予想で大雨注意報の土壌雨量指数基準に到達
- ：実況または予想で大雨注意報の土壌雨量指数基準未滿



④土砂災害警戒判定メッシュ情報の例

避難情報の発令基準について

避難情報	発令基準		市民に求める行動
	洪水災害	土砂災害	
避難準備・高齢者等避難開始	・富士川（南部観測所）の水位が避難判断水位（4.2m）に達したとき。	・台風の直撃が予想され、避難勧告以上の発令が想定される場合	・避難行動要支援者は、避難してください。 ・上記以外の方は、家族等との連絡、非常持出品の用意等、避難準備をしてください。
避難勧告	・富士川（南部観測所）の水位が氾濫危険水位（4.9m）に達したとき。	・原則、土砂災害警戒情報が発表されたとき。	・通常の避難行動ができる方は、避難場所等へ避難してください。
避難指示（緊急）	・富士川が市内で氾濫する可能性が一段と高まったとき又は市内で氾濫したとき。	・土砂災害警戒判定メッシュ情報や記録的短時間大雨情報等の気象情報、その他の状況を考慮し、市長が必要と認めたとき。 ・市内で土砂災害が発生し、家屋に被害が発生したとき又はその可能性が高まったとき。	・避難勧告等の発令後で、避難中の方は、確実な避難行動を直ちに完了してください。 ・避難勧告等の発令後で、まだ避難していない方は、直ちに避難するとともに、その余裕がないときは生命を守る最低限の行動をとってください。

※潤井川等については、水位情報、市内各所の雨量、消防団等からの報告、巡視等による情報や浸水の状況等により避難勧告等を発令します。

雨の降り方と強さ

（1時間雨量）	（10～20mm）	（20～30mm）	（30～50mm）	（50～80mm）	（80mm以上）
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	傘をさしていてもぬれる。		傘は全く役に立たなくなる。	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声がよく聞き取れない。	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。		道路が川のようになる。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
車の中		ワイパーを速くしても見づらい。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険。	

豪雨災害における避難について

豪雨時の避難は、一律に市指定避難所に避難すれば良いというものではありません。災害発生をイメージして、自分が避難すべき場所やタイミングをあらかじめ確認しておきましょう。

